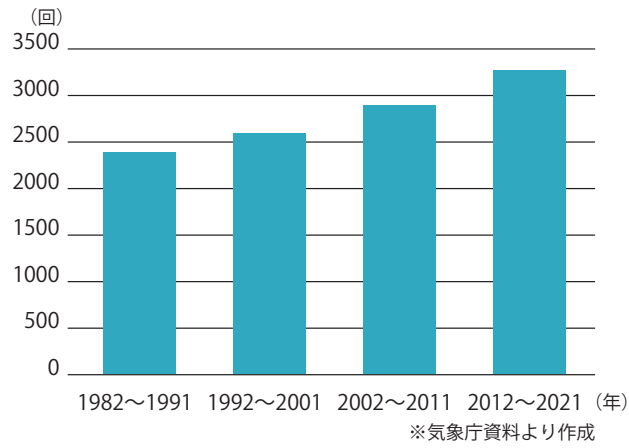


災害に強い県土づくりに向けて

頻発化・激甚化する自然災害

近年の地球温暖化などによる世界的な気候変動に伴い、雨の降り方が集中化・長期化するなど変化してきています。これにより毎年のように全国各地で大規模な災害が起こっています。本県も例外ではありません。



全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数



令和2年7月6日に発生した郡川(大村市)の洪水

「流域治水」による各種治水対策の推進

頻発化・激甚化する災害に備え、従来からの防災にかかる施設整備を加速化するとともに、施設の計画を超える気象現象に対し、ソフト・ハード両面での防災・減災対策を進めています。

県では、流域全体のあらゆる関係者が協働して行う治水対策である「流域治水」の取り組みを実施しており、本年3月には、大村市の郡川水系において治水プロジェクトの公表を行いました。今後も県内各流域で流域治水プロジェクトの作成を進めていきます。



郡川水系流域治水プロジェクト対策

ソフト・ハード含めた19の対策をプロジェクトに盛り込んでいます。



郡川の河川改修



ため池の活用

特集 災害を防ぎ、災害に備える

special issue

～長崎大水害から40年、諫早大水害から65年～

今年、大きな犠牲をもたらした長崎大水害から40年、諫早大水害から65年の節目の年です。近年においても全国的に台風や大雨による大規模な自然災害が発生しており、昨年8月の大雨では県内でも多大な被害が発生しました。

こうした災害の経験を教訓に、県では積極的に防災対策に取り組んでいます。

長崎大水害 (昭和57年7月23日～24日)

長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線は、総雨量572mmの降雨をもたらしました。土石流やがけ崩れなどが各地で多発し、多くの犠牲者と被害が発生する未曾有の大災害となりました。



諫早大水害 (昭和32年7月25日～26日)

諫早地方を襲った豪雨は、1日で588mmを記録する激しいものでした。本明川をはじめとする市内のすべての河川が氾濫し、上流部の至る所で山津波が発生。土石流が多数の民家と人々を飲み込みました。



長崎大水害後の整備状況

氾濫した中島川(長崎市)は、水が流れる面積を広げる改修工事を行いました。また、大雨時にも安全に水を流すことができるバイパス水路を川の兩岸に設けています。



バイパス水路にすることで、国の重要文化財の「眼鏡橋」を現地保存できたんですよ。



災害時はためらわずに避難しましょう

警戒レベル	避難情報等
5	 <p>災害発生 又は切迫</p> <p>緊急安全確保※1</p>
<p>〜 〈 警戒レベル4までに必ず避難! 〉 〜</p>	
4	 <p>災害の おそれ高い</p> <p>避難指示※2</p>
3	 <p>災害の おそれあり</p> <p>高齢者等避難※3</p>
2	 <p>気象状況悪化</p> <p>大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)</p>
1	 <p>今後気象状況 悪化のおそれ</p> <p>早期注意情報 (気象庁)</p>

集中豪雨や台風などの災害の発生が予想される場合は、避難のタイミングを明確にするため、市町が避難情報を発令します。日頃からお住まいの地域のハザードマップや避難所の位置などを事前に確認しておき、危険な場所にいる方は、避難情報が発令されたら適切な避難行動が速やかにとれるようにしておきましょう。

- ※1 緊急安全確保は必ず発令されるものではありません。発令を待たず、警戒レベル4までに必ず避難してください
- ※2 避難指示は従来の「避難勧告」のタイミングで発令されます。全員危険な場所から退避してください
- ※3 高齢者や障害者など、避難に時間がかかる方は避難を開始してください。また、それ以外の方も必要に応じ、自主的に避難してください

避難所における感染症対策

各市町が開設する避難所では、テントを設置するなど、感染症対策を行っています。災害時に危険な場所にいる方は、ためらわず避難所へ避難してください。

また、避難先は避難所だけとは限りません。安全な場所にあるホテルや旅館、親戚・知人宅などへの避難も考えてみましょう。



長崎県知事
大石賢吾

近年の気候変動によって頻発化・激甚化する自然災害に備え、県では、安全・安心な暮らしと命を守るため、災害に強い県土づくりに向けてハード・ソフト一体となった防災・減災対策に取り組んでいます。災害時の迅速・安全な避難行動に結び付くよう、各種災害関連情報の提供に努めてまいりますので、県民の皆さまには、積極的な情報収集により、早めの避難につなげていただくとともに、その際には感染症対策も心掛けていただきますようお願いいたします。

ソフト・ハード一体となった防災・減災対策

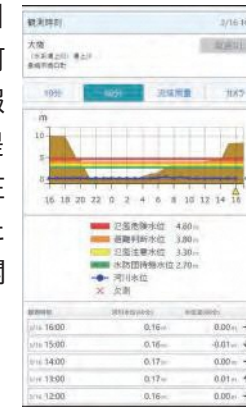
NAKSSのさらなる活用

スマホ版運用開始

NAKSS(長崎県河川砂防情報システム)は、河川水位や雨量の防災情報をリアルタイムに収集・提供するシステムです。現在のパソコン版に加え、新たにスマホ版サイトを公開し、確認しやすくなりました。



NAKSSスマホ版



河川水位情報

河川監視カメラ画像配信

昨年、県が管理する河川の29カ所に河川監視カメラの設置が完了し、従来の河川水位や雨量の情報に加え、河川の状況を画像で伝えることができるようになりました。常に最新の状況を確認できるため、適切な避難行動に活用できます。



風水害への対策

河川の氾濫を防ぐため、川幅を広げるなどの河川改修事業を進めており、今年度は、32河川で事業を実施しています。また、河川整備と組み合わせた洪水対策としてダムへの整備も行っており、川棚川においては、洪水被害の軽減と佐世保市の安定した水源確保を目的として、石木ダムの建設を進めています。



江ノ浦川(諫早市)の河川改修工事

土砂災害警戒区域等立体確認システム

スマホやタブレットのカメラを使って、土砂災害警戒区域や浸水想定区域の分布状況を立体的に確認することができます。お住まいの地域の状況を確認してみましょう。



土砂災害警戒区域等
立体確認システム



土石流・がけ崩れへの対策

県内には土砂災害危険箇所が16,231カ所あります。土石流やがけ崩れは、人命や暮らしに広範囲にわたって大きな被害を及ぼすため、土石流を防ぐ砂防ダムや、がけ崩れを防ぐ斜面对策施設の整備などを行っています。



がけ崩れ対策施設(佐世保市)